

展示にあたって

今年は、本学創立者[松前重義博士\(1901～1991\)](#)の生誕100年目にあたり、また没後10年にあたります。学園全体で各種記念事業が行われている中、図書館においても松前重義博士に大きな影響を与えた主な人物の著書の展示を企画しました。

松前重義博士は、逓信省（旧郵政省・現総務省）時代に「人生いかに生きるべきか」について思い悩み、[内村鑑三（1861～1930）](#)の聖書研究会を訪ね、その思想に深く感銘を受けるようになりました。

内村は無教会主義を唱えたキリスト教思想家で、『デンマルク国の話』『後世への最大遺物』などの著書は当時の青年たちに大きな影響を与えました。松前重義博士は、特にデンマークの教育による国づくりの歴史に啓発され、生涯を教育に捧げようと決意しました。

[グルントヴィ（Nikolai Frederik Severin Grundtvig 1783～1872）](#)は、デンマーク復興の父といわれるキリスト教思想家、詩人、教育者です。敗戦による社会混乱で荒廃した19世紀のデンマークで、形骸化した国教会や学校のあり方を批判し、母国語による生きた教育を実践する国民高等学校運動を提唱し、教育による国づくりをめざしました。その後の松前重義博士の教育活動の実践に大きく影響を与えました。

[新渡戸稲造（1862～1933）](#)もまた松前重義博士の思想に影響を与えた人物であり、思想家、農業経済学者、教育家です。札幌農学校卒業後、アメリカ・ドイツ留学ののち、京大教授、一高校長などを歴任し、キリスト教信者として国際親善に尽くし、国際連盟事務局次長もつとめました。今回の展示をとおして、東海大学創立の背景と足跡、建学の精神の源流に触れていただければ幸いです。

<展示目録>

- [グルントヴィ](#)
- [松前重義](#)
- [内村鑑三](#)
- [新渡戸稲造](#)

<写真ギャラリー>

- [松前篠原文庫開設について（松前重義博士直筆）](#)
- [グルントヴィ・内村鑑三・新渡戸稲造・松前重義博士の人物年表](#)
- [展示会の風景](#)



<グルントヴィ>

1. Maskeradballet i Dannemark 1808 : Et Syn / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kjobenhavn : J.H. Schubothe
1808年
「1808年デンマークでの仮装舞踏会：詩劇」 1807年のイギリスとデンマークの再戦の際、イギリス艦隊の砲撃によりコペンハーゲンには炎上、デンマークは困窮していたが、国民の多くは仮装舞踏会に明け暮れ、享乐的に過ごしていた。これに憤慨したグルントヴィは、詩劇「仮装舞踏会」を出版し、その中の詩をもって祖国に対して危急を警告したが、彼らには届かなかった。
2. Optrin af Nordens Kampeliv. 1.-2. D. (Optrin af Norders og Asers Kamp / ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig)
Kjobenhavn : Schuboths
1809-1811年
「北欧における戦闘生活の出来事」 友人エーレンスレーヤ (Oehlenschläger, Adam Gottlob 1779-1850) の30歳の誕生日を祝して出版された史的物語。
3. Saga : Nytaarsgave for 1812 / ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kjobenhavn : Andreas Seidelin
[1811年]
「サガ：1812年への新年の贈物」 1811年、グルントヴィはウズヴィの教会の副牧師を命ぜられた。彼は好きな詩作も歴史の研究もやめて農民たちのキリスト教的信仰の啓蒙にいそしんだがあまり長続きせず、その年の暮れ新年の贈り物として「サガ」を出版した。彼の再生詩生活の最初の作であった。
4. Til Fadrenelandet om dets Tarv og Fare : et Ord / ved N.F.S. Grundtvig
Kjobenhavn : P. H. Hoeckes Enke
1813年
「祖国にとっての利益とリスク」 当時デンマークの財政は破綻し衰れむべき状態で、彼は祖国の困窮に心を痛めていた。この本を通して人々に神の助けを求めて祈ることを説いたが、人々は聞き流して関心を持たなかった。
5. Roskilde-Riim / ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kjobenhavn : Andreas Seidelin
1814年
「ロスキル韻詩」 ロスキルのドーム教会（当時のデンマーク教会の精神的退歩を心配して、その回復のために宗教研究所を設け、半年ごとに牧師大会を開いていた。）で開かれたセーランド牧師大会で読んだ大作。当時の宗教界を痛烈に批判している。
6. Paaske-lilien / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kjobenhavn : Th. Michaelsen & Tillges
1859年
「水仙」
7. Paaskeliljen / N.F.S. Grundtvig ; Indledning af Johan Borup ; Tegninger af Niels Larsen Stevns
Kobenhavn : Bianco Luno
1933年
「水仙」 「デンマークの防壁（ダンネベヤケ）」1817年第2巻に書かれたもの。水仙はデンマークでは農民の花として低く見られているが、彼はこの水仙の花がバラやチューリップなどの美しい花々に先駆けて咲くのをデンマークの農民にたとえて、知識階級や権力階級の人々がいまだ信仰的に眠っている間に、彼らが早く信仰に目覚めることを暗示した。
8. Helligtrekongerlyset eller Tre Dages handelser paa Dannemarks Hoiskole : En Beretning / ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kjobenhavn : Andreas Seidelin
1814年
「聖三王の光、または、デンマーク高等学校での3日間の出来事」 1814年義勇軍に参加した多くの学生に対して、義勇軍への応募よりも眠っている魂を目覚めさせることが必要であることを説き、これを国王に上奏した。彼らの間に神を恐れ祖国を愛する感情をみるようになったことで、非常に勇気を得てこれを詩に賦したものの。タイトルの聖三王とは、神・キリスト・聖霊のこと。
9. Kort Begreb af Verdens Kronike, betragtet i Sammenhang / ved Nik.Fred. Sev. Grundtvig
Kiobenhavn : J.H.Schuboths
1814年
「世界年代記概略」 この時期のロマン主義思想の象徴的な書物である。この中で彼は歴史中の人物を聖書の指尺で計っていた。
10. Danne-Virke et Tids-Skrift / af N.F.S. Grundtvig
Kiobenhavn : Schiotz & Mandra
1816-1819年
「デンマークの防壁（ダンネベヤケ）」（雑誌） 「デンマークの防壁」とは南シュレスヴィとドイツとの国境にある防壁で、彼がこの名を用いたのはこれによって、デンマークの精神の独立と防衛を計ろうとした為である。彼の思想は幾たびかの試練の中で角が取れ、文章は温和に平和になっていった。しかし、彼の中には愛国心の炎が燃えたぎっていることに変わりはなかった。
11. Danmarks Kronike / af Saxo Grammaticus ; fordansket ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig
Kiobenhavn : Bekostet af Kronikens Danske og Norske Venner

1818-1822年

「デンマーク年代記」 Gesta danorum (ゲスタ・ダノラム) サクソ・グラマティクス著のデンマーク語訳。各教会から締め出され、彼の信仰についてくる者が少ないことに悲観して、好きな歴史の研究をはじめたグルントヴィはサクソの翻訳をすることによって、次第に深くデンマークの精神に触れ、サクソの古典的な歴史を農民たちにもわかるようにやさしいデンマーク語に翻訳した。

12. Norges Konge-Kronike / af Snorro Sturleson ; fordansket ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjobenhavn : Bekostet af Kronikens Danske og Norske Venner

1818-1822年

「古代ノルウェー歴代王物語」 Heimskringla (ヘイムスクリングラ) スノリ・ストウルレッセン著のデンマーク語訳。スノリが3世紀にあらわしたノルウェー王朝史とも言うべきサガの大著。

13. Den christelige Kamp : Pradiken paa eenogtyvende Trinitatis-Sondag 1825 / af Nik. Fred. Sev.

Grundtvig

Kiobenhavn : Wahlske

[1825年]

「キリスト教戦 : 1825年の21番目の三位一体の祝日のための説教」 グルントヴィが「教会からの返答」を出版すると、コペンハーゲン市民を二分する騒ぎになり、クラウセン教授は彼を名誉毀損罪で法院に提訴した。クラウセンの同情者ミュンスター牧師(Mynster, J.P. 1775-1854)は、「キリスト教知識」と題した説教を出版し、グルントヴィを盲目的な危険人物であり、社会混乱の張本人であるとして攻撃した。この本はその「キリスト教知識」に対しての説教を出版したもの。

14. Theologisk Maanedsskrift / udgivet af N.F.S. Grundtvig og A.G. Rudelbach

Kjobenhavn : Wahlske

1825-1828年

「神学月報」 牧師職を剥奪された後も、許可を得て「神学月報」を出し、わずかに宗教社会に対する不満を吐き出していった。

15. Kirkens Gienmale imod Professor Theologia Dr. H.N. Clausen / ved Nik. Fred. Sev. Grundtvig 3.

uforandrede Opl.

Kjobenhavn : Wahlske

1825年

「H.N. クラウセン神学教授に対する教会からの返答」 クラウセン(Clausen, Henrik Nicolai 1793-1877)教授による「カトリシズムとプロテスタンティズムの教会憲法、教義及び礼典」に対して、彼は信徒の歴史的存在の代わりに空中楼閣を描き、神の言葉を以って信者の間に日々生きているキリストの代わりに、キリスト教主義を奉戴しているに過ぎないとこき下ろした。

16. Om Religions-Frihed : Tredie og sidste Stykke / af N. F. S. Grundtvig

Kjobenhavn : [出版者不明]

1827年

「宗教の自由に関して : 第3編と最終編」 1826年にクラウセン教授の名誉毀損罪の訴えに対する裁判所の判決があり、彼は罰金と今後許可なく著作物を発行できない終身検閲の下におかれることになり、1827年に書き上げたこの本は発行が許可されずに、印刷されたまま四十年後まで一般人には読ませることができなかった。

17. Om den Clausenske Injurie-Sag / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kiobenhavn : Wahlske

1831年

「クラウセンの中傷問題について」

18. Om Daabs-Pagten : i Anledning af S.T. Hr. Stiftsprovst Clausens Barne-Daab og offentlige

Erklaring / af Nik Fred. Sev. Grundtvig

Kjobenhavn : Wahlske

1832年

「洗礼の約定について : カトリック副司教クラウセンの幼児洗礼と公の布告に際して」

19. Historisk : Borne-Lardom / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjobenhavn : Wahlske Boghandling

1829年

「子供が学ぶデンマーク史」 この時期、彼は子供のためのデンマーク歴史物語を書いた。

20. Kronike-Riim til Borne-Lardom med Indledning og Anmarkninger / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjobenhavn : Wahlske Boghandling

1829年

「子供が学ぶための序説及び解釈つきデンマーク歴史詩」

21. Nordens Mythologi eller Sindbilled-Sprog historisk-poetisk udviklet og oplyst / af Nik. Fred. Sev.

Grundtvig

Kiobenhavn : J.H.Schuboths

1832年

「北欧神話」 第2回の渡英の後に書かれたこの大作の序文には、国民高等学校創立の思想が書かれている。つまり、普通のデンマークの農民たちに歴史の一般的知識、すなわち北欧の先人たちの歴史的事実を正しいデンマーク語で教えようとする考え方である。

22. Om Sogne-Baandets Losning og Hr. Professor Clausen / af N.F.S. Grundtvig

Kiøbenhavn : Wahlske

1834年

「教区束縛の解決とクラウセン教授について」 その当時まで、デンマーク人は生まれた地区の教会で説教を聞き、洗礼聖餐をうけなければならなかった。自由に他所の牧師を尋ねて信仰を深くすることができるようにしなくてはならないという信仰の自由を求めたもので、初めての議会が召集されたときに提出したもの。時勢の変化か、長年の仇敵であったクラウセン教授もこの教会自由に賛同した。

23. Det Danske Fiir-Klover eller Danskheden / partisk betragtet af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kiøbenhavn : Wahlske

1836年

「デンマークの四つ葉のクローバー、または、デンマーク性」 「国王・国民・祖国・国語」の4つが協力してゆけば、デンマークは幸福になるとのべた。

24. Til Nordmand om en Norsk Hoi-Skole / fra Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Christiania : Grondahl

1837年

「ノルウェー国民高等学校についてノルウェー国民へ」 ノルウェー国民高等学校の草案とスカンジナビア大学の計画を書いたもの。

25. Frisprog mod H.H.Hr. Biskop Mynsters Forslag til en ny Forordnet Alterbog / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjøbenhavn : Wahlske Boghandel

1839年

「ミュンスター僧正の提案した新祈祷書に対しての意見書」 祈祷書の新しい選定についてのミュンスター僧正の提案に反対して出した論文。また、グルントヴィはキルケゴール (Kierkegaard, Søren 1813-1855) と共に宗教運動を展開した。

26. Bon og Begreb om en Dansk Hoiskole i Soer / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kiøbenhavn : Wahlske

1840年

「ソーレのデンマーク高等学校についての願望とその概念」 ソーレ (Soer) の国立のアカデミーを国民高等学校に改造することを国王に対して提案していた。

27. Danskeren : et ugeblad / samlet og udgivet af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjøbenhavn : I Commission hos Bog- og Papirhandler F.H. Eibe

1848-1851年

「デンマーク人：週刊誌」 デンマーク的な見地からデンマーク人の啓蒙教育をしようと試みた。

28. N.F.S. Grundtvigs sidste Pradikener : i Vartov Kirke 1861-72 / et Udvalg af C.J. Brandt

Kjøbenhavn : Karl Schonberg

1880年

「グルントヴィの最後の説教：ヴァートゥ教会にて、1861-72年」

29. Nyaars-Onske i Danske Samfund / af Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjøbenhavn : Wahlske

1843年

「デンマーク協会に対する新年の祝詞」 デンマーク協会とは、彼がまだ牧師の職に復帰できないでいるとき、学生達の希望にこたえて政治、宗教、文学、思想、社会問題などについて意見の交換をする場を作ったもので、ここに集った人々はその後、牧師や教師となって農村に帰り、そこでまた小さな協会を作った。この中で、彼はデンマーク式教育と教養の必要性を力説して、国民に愛国心の高揚を説いている。

30. Lykonskning til Danmark med Det Danske Dummerhoved og Den Danske Hoiskole / af Nik.

Fred. Sev. Grundtvig

Kjøbenhavn : C.A. Reitzel

1847年

「愚かな国民を持ったデンマークとデンマーク国民高等学校を持ったデンマーク、そのデンマークへの幸運の願い」

31. Mands Minde 1788-1838 : Foredrag over det sidste halve Aarhundredes Historie holdte 1838 / af

Nik. Fred. Sev. Grundtvig

Kjøbenhavn : Karl Schonberg

1877年

「思い出の記 1788 - 1838」

32. [Offprints of poems and articles in periodicals] 1 / N.F.S. Grundtvig

Copenhagen : 出版者不明

1807-1880年

33. [Offprints of poems and articles in periodicals] 2 / N.F.S. Grundtvig

Copenhagen : 出版者不明

1849-1880年

1 case (23 booklets) 雑誌に発表した論説や、詩の抜き刷りと教会などで配ったと思われる賛美歌の歌詞や説教などの図書としては扱えない断片を2箱にまとめて整理したもの。

＜松前重義＞

- | | | | |
|---|-------|----|---------|
| 34. デンマークの文化を探る / 松前重義著
東京：向山堂書房 | 1936年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 35. デンマークの文化を探る / 松前重義著
東京：望星社 | 1950年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 36. 敗戦デンマークの復興を見よ / 松前重義著
東京：東海書房 | 1945年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 37. 科学の本質と信仰 / 鈴木弼美, 政池仁, 松前重義著
東京：日本傳道協會出版部 | 1939年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 38. 科学・技術・思想 / 松前重義著
東京：科学主義工業社 | 1941年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 39. 科学の進歩とマルクス主義 / 松前重義著
東京：天満社 | 1951年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 40. 科学の進歩とマルクス主義の崩壊 / 松前重義著
東京：民主評論社 | 1953年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 41. 科学は歴史を変える：四度欧米を訪ねて人工衛星と原子力時代を探る / 松前重義著
東京：東海大学出版局 | 1958年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 42. 東亞技術體制論 / 松前重義著
東京：科学主義工業社 | 1941年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 43. 日本技術論 / 松前重義著
東京：大日本雄辯會講談社 | 1942年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 44. 技術人と技術精神 / 松前重義著
東京：白揚社 | 1942年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 45. 技術者の道 / 松前重義著
東京：科学新興社 | 1945年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 46. 技術開発への道：無装荷方式の開発と指導精神 / 松前重義監修；無装荷方式刊行会編
東京：電気通信協会 | 1977年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 47. 電気通信概論 / 松前重義, 西崎太郎共著
東京：コロナ社 | 1938年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 48. 電気通信概論 / 松前重義著
東京：東海大学出版会 | 1964年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 49. 無装荷ケーブルによる長距離通信方式の研究 / 松前重義著
東京：コロナ社 | 1936年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |
| 50. 真空管 / 松前重義, 小林正次著
東京：電気通信學會 | 1938年 | | 松前・篠原文庫 |
| 51. 發明記 / 松前重義著
東京：東海書房 | 1953年 | 初版 | 松前・篠原文庫 |



52. 發明への挑戦：松前重義論文集 / 松前重義論文集刊行会編
東京：東海大学出版会

		1969年	初版	松前・篠原文庫
53. 原子力時代を探る / 松前重義著 東京：東海出版印刷		1956年	初版	松前・篠原文庫
54. 我等の世界観 / 松前重義 [ほか] 著；石塚市郎編輯 東京：望星學塾		1940年	初版	松前・篠原文庫
55. 戦時生産論 / 松前重義著 東京：旺文社		1943年	初版	松前・篠原文庫
56. 生産増強の方策 / 松前重義 [ほか] 著 東京：霞ヶ關書房		1943年	初版	松前・篠原文庫
57. 赤い歯車：ソ連・中共の産業を見る / 松前重義著 東京：読売新聞社		1954年	初版	松前・篠原文庫
58. 松前重義と英世学園：その思想と行動 / 「松前重義と英世学園」編纂委員会編 東京：東海大学		1986年	初版	松前・篠原文庫
59. 松前重義と望星学塾：その思想と行動 / 「松前重義と望星学塾」編纂委員会編 東京：東海大学		1986年	初版	松前・篠原文庫
60. 回顧と前進：東海大学建学の記 / 松前重義著 東京：東海大学出版会		1970年	初版	松前・篠原文庫
61. 東海大学建学の記 / 松前重義執筆 東京：東海大学出版会		1989年	初版	松前・篠原文庫
62. 前進する東海大学 東京：東海大学		1967年	初版	
63. 東海大学の精神：大学の使命と未来へのビジョン / 松前重義著 東京：東海大学出版会		1969年	初版	松前・篠原文庫
64. 図録東海大学50年 東京：東海大学出版会	1992年	初版		
65. 現代文明論 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1963年	初版		
66. 現代文明論 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1964年	改訂増補		
67. 『現代文明論』附録 / 松前重義著 東京：東海大学出版会				松前・篠原文庫
68. 二等兵記 / 松前重義著 東京：日本出版協同	1950年	初版		松前・篠原文庫
69. 死地に追いやられた二等兵の手記 / 松前重義著 東京：旺文社	1957年	再版		松前・篠原文庫
70. 二等兵記 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1968年	改訂新版		松前・篠原文庫



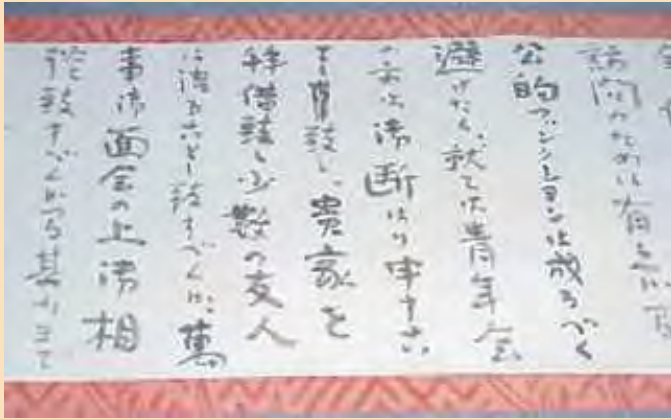
71. その後の二等兵 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1971年	初版	松前・篠原文庫
-----------------------------------	-------	----	---------

72. 詩歌集 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1967年	初版	松前・篠原文庫
73. 樗と私：随想集 / 松前重義著 東京：東海教育研究所	1977年		松前・篠原文庫
74. わが人生 / 松前重義著 東京：講談社	1980年	初版	松前・篠原文庫
75. わが昭和史 / 松前重義著；白井久也構成 東京：朝日新聞社	1987年		松前・篠原文庫
76. 武道思想の探究 / 松前重義編 東京：東海大学出版会	1987年		松前・篠原文庫
77. 青春に生きよう：松前重義望星学塾講演集 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1991年	初版	松前・篠原文庫
78. 最近の世界政治の動向と思想的背景 / 松前重義著 東京：東海大学出版会	1965年	初版	松前・篠原文庫
79. 新科学時代の政治観 / 松前重義著 東京：東海大学出版局	1970年	再版	松前・篠原文庫
80. 私の民間外交二十年：日本対外文化協会二十年の記録 / 松前重義著；日本対外文化協会二十周年記念事業実行委員会編 東京：日本対外文化協会	1986年	初版	松前・篠原文庫
81. 松前重義その政治活動 / 「松前重義その政治活動」編纂委員会編 東京：東海大学	1987-1990年	初版	



<内村鑑三>

- 82. 内村鑑三書簡（植木文子宛 ハガキ 9 枚、封書 1 通 歌一首入）
- 83. 内村鑑三書簡（佐伯理一郎・佐伯義男宛 16 通）



84. 内村鑑三先生御遺墨帖 / 内村鑑三著	1941年	
85. コロムブス功績 / 内村鑑三著 東京：福永文之助	1893年	松前・篠原文庫
86. 後世への最大遺物 / 内村鑑三著 京都：便利堂書店	1897年	
87. 研究十年 / 内村鑑三著 東京：聖書研究社	1920年	5版 松前・篠原文庫
88. モーセの十戒 / 内村鑑三著 東京：聖書研究社	1920年	松前・篠原文庫
89. 英和獨語集 / 内村鑑三著 東京：岩波書店	1922年	松前・篠原文庫
90. ダニエル書の研究 / 内村鑑三著 東京：聖書研究社	1922年	松前・篠原文庫
91. Wie ich ein Christ wurde : Bekenntnisse eines Japaners / von Kanso Utschimura[Uchimura,Kanzo] Stuttgart : D.Gunvert	1923年	松前・篠原文庫
92. 余は如何にして基督信徒となりし乎 / 内村鑑三著；鈴木俊郎譯 東京：岩波書店	1935年	松前・篠原文庫
93. 羅馬書の研究 / 内村鑑三著 東京：向山堂書房	1924年	松前・篠原文庫
94. ガリラヤの道 / 内村鑑三著 東京：警醒社	1925年	
95. 舊約十年 / 内村鑑三著 東京：聖書研究社	1926年	第4版
96. 研究第二之十年 / 内村鑑三著 東京：聖書研究社	1926年	再版
97. 一日一生 / 内村鑑三著；山本泰次郎編 東京：教文館	1960年	松前・篠原文庫
98. 内村鑑三全集 / 内村鑑三著 東京：岩波書店	1932年	
99. 聖書之研究 / 内村鑑三主筆 東京：聖書之研究復刻版刊行会	1969-1971年	復刻版
100. 聖書之研究 / 内村鑑三編著 東京：聖書研究社	1921-1924年	松前・篠原文庫

＜新渡戸稲造＞

101. 武士道 / 新渡戸稲造著；桜井鷗村訳
東京：丁未出版社 1908年 初版
102. 武士道 / 新渡戸稲造著；矢内原忠雄訳
東京：岩波書店 1974年 改版
103. 武士道：現代語で読む / 新渡戸稲造著；奈良本辰也訳・解説
東京：三笠書房 1983年
104. 武士道：日本人の魂 / 新渡戸稲造著；飯島正久訳・解説
東京：築地書館 1998年 初版
105. 武士道：日本のこころ：日本思想の解明 / 新渡戸稲造著；佐藤全弘訳
東京：教文館 2000年
106. 隨想録 / 新渡戸稲造著
東京：丁未出版社 1907年 再版 松前・篠原文庫
107. 隨感録 / 新渡戸稲造著
東京：子文社 1913年 再版
108. 歸雁の蘆 / 新渡戸稲造著
東京：弘道館 1908年 5版
109. 農業本論 / 新渡戸稲造著
東京：六盟館 1912年 増補改版
110. 折にふれ / 新渡戸稲造著
東京：丁未出版 1914年 初版
111. 人生雜感 / 新渡戸稲造述；國井通太郎編
東京：警醒社書店 1915年 初版
112. 一人の女 / 新渡戸稲造著
東京：實業之日本社 1919年 松前・篠原文庫
113. 東西相觸れて / 新渡戸稲造著
東京：實業之日本社 1928年 松前・篠原文庫
114. ウィリアム・ペン伝 上・下 / 新渡戸稲造編
東京：現代小説出版社 1928年 松前・篠原文庫
115. 内觀外望 / 新渡戸稲造著
東京：實業之日本社 1933年 松前・篠原文庫
116. 人生讀本 / 新渡戸稲造著
東京：実業之日本社 1934年 松前・篠原文庫
117. 西洋の事情と思想 / 新渡戸稲造著
東京：實業之日本社 1934年 初版 松前・篠原文庫
118. 新渡戸博士文集 / 新渡戸稲造著；矢内原忠雄編
東京：故新渡戸博士記念事業實行委員 1936年 初版 松前・篠原文庫
119. 衣服哲學 / 新渡戸稲造著；高木八尺編
東京：研究社 1938年 初版 松前・篠原文庫
120. 農業本論 / 新渡戸稲造著
東京：農山漁村文化協会 1976年
121. 新渡戸稲造全集 / 新渡戸稲造全集編集委員会編
東京：教弘館 1983-1987年

松前篠原文庫開設について
(松前重義博士直筆)



グルントヴィ・内村鑑三・新渡戸稲造・
松前重義博士の人物年表等



展示会の風景

